

酒類ガイドライン遵守推進本部だより



平成 23 年 4 月 18 日

全国卸売酒販組合中央会
酒類ガイドライン遵守推進本部

「酒類業界における役割を思う」

委員 萩原 哲夫

この度、東日本大震災により被災されましたご同業の皆様並びに各お取引先様、メーカー様あらゆるご関係の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今日、日本の現代社会が経験した事の無い程の大災害を前に、日常生活、経済活動そして我々の酒類業界においても商品需給、流通と大混乱に陥っている現実を目の辺りにしているところであります。この瞬間あらゆる事象に関して立ち止まり、振り返り、見直しをし、そして心を静めていざ希望へのスタート地点にまさしくつかんとしているところであると思います。

冷静に省みれば内部要因、外部要因、酒類業界を取り巻く環境にしてもこの度の大震災に匹敵する位の変化と変貌をたどってきたようにも思えます。我々の酒類業界にあっても、「ここから」の転換を図れるかどうかに尽きると思います。

まさに発達した現代においても、メーカー、卸、小売業という日本型流通機構の基に業種型流通は存在しております。流通に影響力を持つ小売業の中には、メーカーとの直取引の形態を取り始めている企業もありますし、卸との協働をさらに深めている企業も事実存在します。更には、小売業界の将来的な集約が組織小売業だけかと予測すると、人口密度とエリア（地域＝地方）に区分した業態は今後も存在していく、いえ、存在させていかなければならないと思います。

従いまして酒類卸業としての自社の経営体制づくりと、存在領域の確立は必然、かつ、明確に打ち出されるものであると思います。

具体的には、小売店とメーカー双方の情報発信を取り持つ役割（メーカー＝トレンドの創出、小売店＝実態としての消費者動向）。それに伴う効率的な商品物流の調整役としての卸の存在感。そして、メーカーの営業とマーケティングを代行する機能代行卸としての存在感。一つ一つの要素を取り上げれば、店頭支援、末端料飲店へのメニュー提案、グローバル化の時代とは言え、地産地消と言う言葉にあらわされる地酒等の地域活性化の取組。地元行政や管轄官庁との営業を越えた酒類業界活性化の為の共同取組等、模

索を始めればあまたの方策があるのではないのでしょうか。

我々の酒類業界に携わるものは、全国規模でのエリアを担う役割、地域に特化したエリアを担う役割、様々な業態に特化した役割等それぞれの役割における精度を高め、例えば、「———難民」、この様な自嘲的言葉を発しなくてすむ流通を堅持していくことも我々酒類業界の重要な社会的使命と考えます。

また、メーカーへの期待と致しまして、自社存続・発展へ向けての国内系列化やM&A、そして海外市場への進出は必然と思います。増収・増益・投資、その為の企業運営は、どの様な業界であれども究極のテーマであります。しかしながら、そのテーマを越えたところでの市場間格差、若い人達から高齢者まで、全国津々浦々に生活するすべての消費者の満足を充実させる為に、我々酒類卸業界とは別の角度から業界活性化を臨むところでありますし、その為の無限大の力を真に有するのは、メーカーであるという自負で臨んで頂きたいと思えます。

生産、卸、小売三層を尊重し存続してきた我々酒類業界であるからこそ、より一層の苦難の時代が来ようとも発展を目指し「改革する事」と、一番大切な各企業に従事するそれぞれの社員の生活の安定と確保を目指し、「原点に立ち返る事」を胸に日々の業に向かうところであります。

東日本大震災義援金のお願い

去る3月11日に発生した「東日本大震災」は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0という規模であり、東北及び関東地方の広範囲において壊滅的な被害をもたらしており、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

被災地の卸売酒販組合においては、多数の組合員が甚大な被害を受けております。

組合員である酒類卸売業者は、酒類のほか加工食品等についても小売業者に納入（責務）しており、被災地のライフラインの維持に不可欠と考えており、1日でも早い復興が期待されております。

そこで、当中央会では、被災した組合員（酒類卸売業者）に対する「義援金口座」を下記のとおり開設しておりますので、お見舞いの気持ちを「義援金」として、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

三井住友銀行日本橋東支店 普通預金 口座番号 No.7678066

口座名 ゼンコクオロシウリシユハンクミアイチユウオウカイ ギエンキングチ
全国卸売酒販組合中央会・義援金口

カイ チョウ 会長 コクブ カンベエ 國分 勘兵衛

○ 平成 23 年 3 月ビール及び発泡酒等の出荷状況

(単位:kℓ・%)

期間 区分	3 月			1 ~ 3 月		
	当月数量	前年数量	前年比	本年数量	前年数量	前年比
ビール	210,674	222,480	94.7	515,581	517,580	99.6
発泡酒	66,752	83,672	79.8	180,378	203,739	88.5
新ジャンル	144,768	167,917	86.2	382,026	369,204	103.5
計	422,194	474,069	89.1	1,077,985	1,090,523	98.9

※ 東日本大震災の被害が大きいキリンビール仙台工場分は含まれていない。